

冬休み中、暖房のきいた室内で過ごすことが多くなり、運動不足になってしまったり、夜ふかしをして生活のリズムがみだれてしまったりしていませんか？『早ね・早おき・朝ごはん』を合言葉に、規則正しい生活を心がけ、新年も元気に登校しましょう。



ぜんこくがっこうきゅうしょくしゅうかん

24日～30日は全国学校給食週間

明治22(1889)年に始まった学校給食は、戦争により一時中断しましたが、アメリカのLARA(アジア救済公認団体)などの物資援助を受けて再開されました。昭和21(1946)年12月24日に給食用物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」と定め、その後、給食の意義や役割についての理解や関心を深める週間として、冬休みと重ならない1月24日から1月30日が「全国学校給食週間」になりました。文蔵小では、26日に明治22年当時を再現した給食を提供します。

がっこうきゅうしょく

学校給食のはじまり

学校給食は、明治22(1889)年、山形県鶴岡町の忠愛小学校で、家が貧しい子どもたちへ、無償で昼食を出したのが始まりとされています。当時の献立は、おにぎり、塩鮭、漬物といわれています。それから全国各地に広まってきました。



姉妹友好都市献立が登場！

さいたま市は、国内4市町、海外6都市と姉妹・友好都市として提携していて、教育やスポーツ、文化などの分野で交流を行っています。給食週間の期間中に、国内1市1町、国外2都市の姉妹・友好都市の料理を紹介していきます。料理の内容については、1月分予定献立表をご覧ください。



給食は生きた教材



給食は、おいしい食事で体の成長を支えるだけでなく、みなさんが栄養素の知識や望ましい食生活や食事のマナーなどを身につけたり、行事食や郷土食を通して、地域の文化や伝統を学んだりすることができる教材でもあります。



今月の行事食「お正月」

正月は幸せや豊作をもたらすその年の神様を迎える年中行事として、昔から大切に祝われてきました。

おせち料理には年神様をもてなして、共にいただくものとして、さまざまな意味や願いが込められています。



かがみびら「鏡開き」

鏡開きは、毎年1月11日に行われる日本の伝統行事です。お正月に年神様が滞在していた居場所であるおもちをおろし、お雑煮やお汁粉にして食べることで、その力を分けていただき、1年の無病息災を願うものです。



初日の給食には、お正月・鏡開きの行事食として「紅白なます」「白玉ぜんざい」を提供します。お楽しみに！